序章　海を越える文学――移民・書物・想像力……11
1　旅をする本と出会う　11
2　研究のねらい　13
3　日系アメリカ移民略史　21
4　日系アメリカ移民文学とその研究史　25
5　本書の概要　30

I　アメリカに渡る法

第1章　移民の想像力――渡米言説と文学テクストのビジョン……36
1　アメリカへ――　36
2　誘う言葉たち　40
3　渡米物語の想像力　46
4　裏面の物語　51

第2章　船の文学……56
1　船から読む　56
2　成功ブームと渡米の夢　60
3　永井荷風「船室夜話」を読む　62

Ⅱ　サンフランシスコ、日本語空間の誕生

第3章　日本語新聞と文学……68

1　「文学」に必要な環境　68
2　日系アメリカ移民と日本語新聞　70
3　移民地の「国内刊行物」　71
4　移民新聞と日本語文学――『新世界』の場合　73
5　まとめ――移民新聞の役割　82

第4章　移民と日本書店――サンフランシスコを中心に……85

1　移民地と日本語空間　85
2　日本書店小史　91
3　取次　99
4　販売　101
5　書店を経ない流通　104
6　文化の循環・創出の結節点としての日本書店　105

第5章　ある日本書店のミクロストリア――五車堂の場合……109

1　五車堂の歴史　109
2　五車堂の商売　112
3　もう一つの五車堂の歴史　114

4 駿河台下の五車堂をめぐる挿話 117
5 書物のネットワークのなかで 120

Ⅲ 異土の文学

第6章 一世、その初期文学の世界 …… 126
1 移民文学史の空白 126
2 初期文学の配置図 128
3 初期日系移民文学の特質 136
4 個別の作品から見えるもの――成功、醜業婦、写真結婚 145
5 まとめ――異なる「文学」観 150

第7章 漱石の「猫」の見たアメリカ …… 151
1 吾輩は移民する 151
2 「吾輩の見たる亜米利加」 153
3 移民の文学リテラシーと情報の流通網 158
4 移民たちの姿――生活、排日、そしてオリエンタリズム 161
5 殖民論と「郷土小説」と 166
6 〈外〉の眼と環太平洋のネットワーク 171

第8章 永井荷風『あめりか物語』は「日本文学」か？ …… 172

1 移動のもたらす混乱 172
2 在米日本人としての永井壮吉 174
3 荷風、在米時代の文学活動 180
4 『あめりか物語』の描いたもの／描かなかったもの 183
5 まとめ——学術領域（ディシプリン）の再考へ 190

第9章 転落の恐怖と慰安——永井荷風「暁」を読む……192
1 滞米時代の荷風、再考 192
2 「暁」を読む 193
3 コニー・アイランド 197
4 魔窟の一夜は明けたか 201

第10章 絡みあう「並木」——太平洋両岸の自然主義文学……206
1 オリジナル？ コピー？ 206
2 自然主義、海を渡る 208
3 ロサンゼルスの自然主義者——岡蘆丘「並木」 212
4 「並木」の変貌——島崎藤村と岡蘆丘 217

Ⅳ 移動の時代に

第11章 洋上の渡米花嫁——有島武郎「或る女のグリンプス」と女の移民史……224

6　中島直人の文学から見えるもの　285

第14章　〈文〉をたよりに――日系アメリカ移民強制収容下の文学活動　……288

1　収容所の文学　288
2　第二次大戦下の日系人強制収容　291
3　分断と越境――キャンプにおける文芸活動・概観　293
4　収容所の文学を読む（1）――旅　299
5　収容所の文学を読む（2）――便り　307
6　〈文〉をたずさえて――おわりに　314

注　319
あとがき　339
初出一覧　343
主要参考文献　344
資料1　『桑港乃栞』第壹――六編　総目次　364
資料2　中島直人著作目録稿　367
資料3　北米日系移民文学・文化史関連年表　369
人名・作品索引　388　事項索引　384

装幀――難波園子